

## (7) 西原仲町自治会

### 自治会加入率

加入世帯数 57世帯 / 総世帯数 62世帯  
加入率 91.9%

### 自治会の紹介

#### ①活動内容について

##### 【西原仲町自治会の概要】

西原仲町自治会は戸数約60、5班構成の小さな町内会である。

桜地区の東部に位置し、陽西通り（昭和31年開通）により二分され、戸数57戸、アパート5棟、駐車場6ヶ所、病院1の閑静な住宅地からなる。住民は約180人、少子高齢社会は典型的な都市型を示す。子ども会は休止中（平成13年）、最近の住民の移動は、真岡一鹿沼線の拡幅による転出6戸、新築転入6戸。町域内に「西大寛」のバス停留所を有する。

現在は、宇都宮市の中心住宅街を形成するが、昔は市の西部「西ツ原」の開拓地であり「西原仲町」の呼称は公式の文書には見当たらない。

行政区は西大寛1丁目、2丁目の一部からなる自治会を構成する生活地域としての町内会は行政区とは重ならない。自治会への住民の加入は91.9%で一見会員の町内会への関心は高いように見える。小さな自治会ではあるが、町内会は誇れる仕事、活動を持つ。

##### 【特色ある自治会活動とその内容】

都心の小規模自治会、少子高齢化、歴史的習慣性、これらの特性を有する自治会の運営は時代の変化を体し、生涯学習を基調とした自治会経営が速急の対応事項である。本自治会が平成10年以降、役員の交代を機に取り組みを進めた試みは現在、10年の節目を迎え、一つの成果を受け継いでいる。その一端を自治会の事業を中心に記す。

## 自治会の紹介

### ①活動内容について

#### ① そこそこ（祖子祖子）広場

「そこそこ広場」は「祖子祖子」が原義である。平成13年度、子ども会の事業を自治会が担う形で発足した。

本自治会は、平成10年度「あさぎり子供会が少子化による会員減を理由に活動を休止することとなり、当時3名の子どもたちへの対応を自治会主催のイベントで補することとした。同時に高齢化の波をとらえ、お年寄りと子どもたちを主役に据えた事業として「そこそこ広場」は開催となった。

即ち、子どもたちとお年寄りとの交流の場の定期的な設定により、相互理解を図り、結びつきを深めることにより、子どもたちの成長に資することを目的とした。その結果は、楽しい時間の共有を可能にした。

以後、足掛け10年にわたり、「夏休みお楽しみ会」、「クリスマスお楽しみ会」の年2度の定期開催の他、卒業を祝う会や6年生を送る会などを含め、第16回の最終記念イベント（平成21年3月）まで、毎回約20人の会員の参加で継続開催された。

子どもたちと高齢者の集いでは有るが、会員は自由に参加できた。

本事業の主たる会場は桜地区公民館分館（現桜地域コミュニティセンター）であるが、県立博物館研修室の利用など、館の企画展などとの組み合わせ実施など多彩である。

平成14年度、第4回から採用した「カレー・パーティ」は以後、本イベント恒例の企画となり、現在まで、本事業の中で4回、他の催しを加え7回の開催、西原仲町自治会のスペシャルイベントに育っている。

これは、会員の家庭料理の持ち寄りパーティの企画であり、自治会会員の交流の貴重な場ともなっている。

現在、自治会における子ども会対象児童生徒数は5名、敬老会対象者数は23名である。

平成21年4月、本事業は所期目的が達成されたと見なし、「仲町喫茶倶楽部」にその仕事を刷新し、新規の開催主旨と事業内容を設定、活動を継いでいる。（後述参照）

#### ② ふれあい仲町塾

「ふれあい仲町塾」は、平成15年度開講の本自治会の生涯学習の場である。現在まで9年間の継続実施は去る平成23年7月17日（土）第20回の記念講座を初のカラオケ教室で祝っている。

本事業は会員の手づくりの生涯学習塾であり、会員の発表の場を作り、相互交流、双方向性を有する生涯学習のまちづくりを目指す取り組みである。

## 自治会の紹介

### ①活動内容について

塾の講師は毎回、会員の誰かが務め、平均12～18人の受講者を得ての開講である。年3回初夏教室、秋教室、冬教室をめぐりに企画実施される。

第1回「ふれあい仲町塾」の会員向けパンフレットには塾の目的について「今年度からこの塾を立ち上げました。不思議に思っていること、役に立つこと、楽しいこと、知って欲しいこと、なんでもOK!」と前置きしてその目的を、①自治会員の生涯学習まちづくりに資する、②自治会員の相互交流の機会をつくる、③楽しい学びの創造を楽しむとある。

講座の内容は、①ごみの分別など生活に直結すること、②「読み聞かせ」などボランティアに関すること、③「北方領土」などの時事問題、④益子焼などの趣味体験、⑤リレートークなど会員の発表等多彩なものであり、会員の関心事を軸とする。

中でも、平成20年度から採り入れた「ハッピー・リレー・トーク」は、会員による10分間スピーチではあるが好評であり、”いきいきリレートーク2008”から”ハッピー・リレー・トーク2011”まで、既に11名の会員がスピーチに挑戦して話題提供に参画している。

この講座は、町内の60歳以上の方々に「私のできるお話し」を1人10分程度していただくもので「私のできるお話し」として、①私の知っている「西原」、②私の聞いた昔噺、③私がこれまでやってきたこと、④私の趣味、⑤私の体験談などをあげている。こうした「ふれあい仲町塾」の話講座は「まなび」への好奇心の開拓に資するものであり、自治会活動の中核をなすものとして今後とも活動の中心に置くべく務める所存である。

### ③ 仲町喫茶倶楽部

「仲町喫茶倶楽部」は平成21年度末、前身である「そこそこ広場」を受け継ぎ発足したボランティア活動を新規に組み込んだ親睦、学習グループである。

現在、「一針ボランティア—お手玉を作って施設交流を作ろう」をテーマに第9回の開催を目指す。

これまでの子ども対象の事業から高齢者のボランティア参加を求める活動は社会の福祉化への自治会の初発の行動であり、200個のお手玉の作成が新しい町会力の養成の軸となる。

## 自治会の紹介

### ①活動内容について

#### ④ 地区体育祭への参加

戸数57戸の小規模町会の地区体育祭への団体参加はそう単純なものではない。各種目へのエントリー調整、予算、係の割り振り、参加意識の継承など様々な課題の解決なくして実現はない。

地区体育祭への自治会参加が激減する現在、毎回約40名の参加を得ての本町内会の参戦は、会員の熱意と合意に支えられなければ実現しない。

西原仲町は町内会対抗種目「ゲート通過」で優勝、準優勝は何度も体験している。目玉種目の存在も、会員の自治会への帰属を強くしているのかも知れない。

#### 【活動の成果と評価】

町の小さな自治会が、事業を継続して実施していくことは容易なことではない。前掲の西原仲町自治会の4つの事業は、ともに自治会員の総意と熱意、志気と根気がなければ成り立たないし継続はできない。

これらの事業を継続、実施し、約10年のキャリアから明らかとなった成果が次の各項である。

- ① 西原仲町の生涯学習の場が得られた
- ② 会員相互の理解、双方向性を持つ自治会が見つけた
- ③ 楽しい時間の共有が可能になり、町の活性化が進んだ
- ④ 町への帰属意識、協力体制が強められた
- ⑤ 継続の重要性が認められ「ご近所」力が高められた
- ⑥ 知的好奇心の涵養（かんよう）は生活の質の向上に働いた
- ⑦ 班を越えた交流が深まった
- ⑧ 自治会活動の「踊り場」（プラットフォーム）が構築できた

こうした一連の積み重ねが、町の発展のひとつのステージとして、生涯学習まちづくりの一端につながればと考える。

ご近所の底力を結集できる新しい生活共同体を、残された21世紀とともに生きるために築く第一歩がこうした町の「おこし」活動であっていいと考える。

### ②高い加入率を維持する秘訣

自治会加入率の維持に係る若干の考察

#### 【住民の帰属意識】

自治会は二つの性格を合わせ持つ。一つは行政の一端を担う行政組織的性格、一つは市民住民の利益を代表して生活を支える組織としての「となり組」的な

## 自治会の紹介

### ②高い加入率を維持する秘訣

生活集団としての組織性である。

こうした自治会への加入は、帰属意識の歴史性、西原仲町の形成史、「西ツ原」の明治初期からの開拓、戦後の居住人口の急増期が「ご近所力」の強化・定着に働きを残した歴史的影響力の解析なしには理解できない。

すなわち、古くからの住民の結びつきの強さが現代的な街社会である自治会への帰属意識の強さに比例するのではないかということである。

西原仲町の居住は57戸中、35戸は昭和20年代以前の居住である。このこと自体、高加入率持続の最強の理由ではないかと考える。

#### 【高加入率維持の日常的な努力】

時代社会、地域の変化は自治会への関心度、帰属意識強化の方向には指向していない。ほっておけば当然加入率は低下する。

「興」もなく、広場や公園・緑地など、町内を代表するランドマークやシンボルを持たない小規模町会の帰属意識高揚は、町旗への「忠誠」などでは達成できるはずもない。創意・工夫、ストラテジーは数多く考えられようが、本自治会の努力事項を示す。

- ① 会員の相互交流、双方向性の確保
  - ・ 本稿に示す4つの自治会事業の徹底浸透を図る
  - ・ 自治会イベントへの参加促進のための広報活動を増やす
  - ・ 会長コメントを付すなど回覧の効果的活用を図る
  - ・ ボランティアなど会員の皆が参加できる機会を増やす
- ② 会員の自治会への帰属意識の強化
  - ・ 自治会誌（「さくらの今をたずねて」）等への投稿を促し、会員の参加を促進する
  - ・ 班長の役割を重視し、意思疎通の現代化に務める
  - ・ 会員に発言、発表の機会を保障する
- ③ 自治会加入のメリットの明確化
  - ・ 広報活動を強化する
  - ・ 防災など明確な地域組織作りを促進する
  - ・ 「見える化」をすべての活動で優先する
  - ・ 成果が形となる仕事を企画・実施する
  - ・ 許される範囲内での差別化を図る
- ④ 生涯学習社会づくりの推進
  - ・ 生涯学習活動の導入・実践を図る
  - ・ 会員の参画を促進する



資料 2-①

回	実施期日	内 容 (テーマ)	備 考
1	H15. 5. 25	「西の原雑考」	開講記念講座 (柏村祐司氏)
2	H15. 9. 20	私の履歴書 (近衛兵)	お話し会 (竹之木進祐一氏)
3	H16. 6. 20	たてのとみさんの世界 「モデルをこえた元気」	作品展と絵手紙喫茶
4	H17. 2. 6	「一冊の絵本をつくる」	読み聞かせ (藤田和子氏)
5	H17. 6. 12	冠婚葬祭入門	作法講座考 (小池あさ氏)
6	H17. 10. 23	食の安全講座	市役所出前講座
7	H18. 4. 16	フリートークキング	市政重点項目を切る
8	H18. 9. 3	北方領土視察記	スライド視聴 (小林博彦氏)
9	H19. 3. 25	話してみま専科	うつのみやの街づくり
10	H19. 7. 15	宇都宮城跡公園視察	第10回記念茶会
11	H19. 10. 7	益子焼絵付講座	「そこそこ広場」とのコラボレーション
12	H19. 12. 1	クリスマス土の香展	会員制作益子焼展覧会
13	H20. 6. 27	新県庁舎訪問	15F 昼食会
14	H20. 10. 25	いきいきリレートーク2008	リレートーク&おしゃべりタイム
15	H21. 2. 21	いきいきリレートーク2008	同上 (3人) 第2弾
16	H21. 7. 4	「絵手紙を描こう」	講師(酒井文子氏)
17	H21. 10. 4	ゴミの新分別について	市職員による実習・講話
18	H22. 6. 6	いきいきリレートーク2010	ロックハインティング
19	H23. 6. 26	いきいきリレートーク 2011	「絵手紙で初身を描こう」
20	H23. 7. 17	20回記念からけ教室	「声を出して元気になろう」

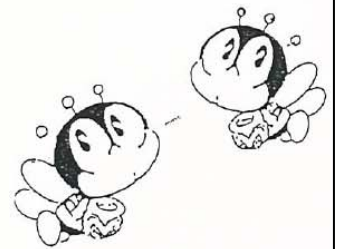
ふれあいの仲塾が  
20回をむかえました!

20回記念教室(塾)が  
「からけす」が「元気作り」に  
挑戦しました。

「かんざりう 日本」

「つみざりう 西原仲町」

◀表-1 「ふれあい仲塾」実施一覧  
(西原仲町自治会)



ふれあいの「ふれあい仲塾」  
は大切に続けていきたいと  
考えています。会員の皆さん  
の理解と支援をお願いします。

「仲塾」は私たち自治会の  
誇れる事業のひとつです。

「ふれあいの仲塾」

ちいさな自治会ですが、町内会は誇れる仕事を持っています。その一つは、「ふれあい仲塾」です。この塾は平成十五年開講、現在までに年三回開催目標で十五回開講しています。(表-1)ここでは原則として町内会の会員を講師に、会員が集う生涯学習の場となっています。会員の発表の場をつくり、お互いが知り合う生涯学習まちづくりの一環として活動の継続を目指しています。



# 第4回 西原仲町 喫茶倶楽部

の開催致します

回覧

今回は新装ほのれ桜地域  
コミュニティーセンター調理室です。

来夏のお料理体験  
ついでにバスタブしゅり  
「蒸しパン」を楽しく作ります  
です。



期日 5月16日(日)10:00~12:30

会場 桜地域コミュニティーセンター

講師 佐野未来さん(回班)

参加費 町で自治会が負担します



今年度はじめのイベントです。どうか  
お誘い合えらうと、参加ください。

5月15日(土)の本前中、町の皆さん  
の元気な顔を交歓しましょう!